

◆◆ 読者の声 ◆◆ 『 急ぎ御文参らせ候一寶樹院殿悲話哀話 』
加藤睦子・執筆

- S 氏：（文筆家としても福岡で著名な方です）2014/8/2
全文読ませていただきました。
ひたすら驚いています。よくぞここまで、細かな調査をされましたね。感服しました。特に小西行長に関する記述で、朝鮮半島での工作活動などはあまり知られておらず、勉強になりました。わがふるさと旧朝倉町は三奈木と接しており、我が家の菩提寺も三奈木にあります。あの地から見える耳納連山の描写もその通りです。まさに大労作でそのかけられた時間を思うと身震いがする思いです。同郷の高校の先輩であられるシオーさんの国際的なご活躍や、奥様の緻密な取材ぶりに、今回はとても心を動かされました。大変勉強になった次第です。
- M 氏：なかなか読み進んでいないのですが、本当によく書かれたものだと驚きです。
来年 NHK は、「黒田官兵衛」ですから、本当に時の共時性を感じますね。
- K 氏：ご著書、興味深く拝読いたしました。大変なご力作で感銘いたしました。
- M 氏： 1/9/2014
「寶樹院」の小説、大変興味深く読ませて貰いました。”はる”の天真爛漫の少女時代、そして何にでも興味を持つ多感な成長期。やがて又左衛門重徳と結ばれ、子を持ち成長してゆく過程。これまで色々な歴史小説を読みましたがいつもパターンが決まっています。信長側、秀吉側、家康側から見た小説がほとんどで小西行長、加藤清正のイメージが、かなり変わって来ました。
- M.Y 氏 1/10/2014
睦子さんの御本は、はる様の語るイソップ物語のように、睦子さんの巧みなストーリー・テリングのおかげで、歴史物は好きではない私が、最後まで読み切ったのだと思います。リサーチ、時代考証も素晴らしく、黒田様御幽閉から、信長、秀吉、家康に翻弄される加藤家の人達と良識ある偉人達との魂の交友の物語、そして、転生の誓いも含めた宗教観等、さまざまなエッセンスが織り込まれていて、たいへんに興奮いたしました。ここから、睦子さんのそのご努力と才能に感服するものであります。はる様は加藤家に嫁に入られましたが、睦子さんははる様の生まれ変わりかもしれない、と思っています。だからこそ、この御本が書けたのかもしれないですね。
- M.M 氏： 2/4/14
小説はとても面白く、史実に基づいてるので感動しましたよ。二度読みました。”はる”の人間性、夫重徳のおおらかさ、読んでいて心が暖まりました。だいたい信長側、秀吉側、家康側からしか描いてないので小西行長の生き方、清正との心のやりとり、とても興味深かったですね。今度は改訂版として長編版を出したらいかがですか？
- F.Y 氏：お久しぶりです。9年前の春、貴女とお会いした時、伊丹有岡城の資料収集など「寶樹院」さまの構想などを伺ってから、ず〜っと心待ちにしておりました。
御出版おめでとう御座います。高橋佳子先生のお教えに寄り添い、長年心に温めて来られた貴女の想いが実を結んだのですね。
10年ひと昔と申しますが、本当に昨日の事のように思い出される石舞台の桃の花の美しさ・・・と

は言え、実際には色々なことが有りました。

例年になく気候不順な折柄、くれぐれも御身お大切にお過ごしくださいませ。右手リンパ切除にて書くのが辛いので、メールにてご無礼致します。

● 節信院：3/5/2014

こちらは、官兵衛が始まり福岡ではずいぶん盛り上がっています。昨日はNHKの「歴史秘話ヒストリア」を担当されている方が本を買いに来られましたので、睦子さんのメールアドレスをお伝えしています。もしかしたら連絡があるかもしれません。大変興味を持たれて、熟読しますと言われてましたよ。

(節信院からも、購入できます。092-281-4182 に、ご連絡ください)

● T.O 氏:(親族) 3/2014

春休みにやっと時間出来て、睦子さんの小説、とっておもしろく読むことが出来ました。まず先に黒田官兵衛を吉川エイジ版で読んで、歴史がよくわかったうえで読んだので、おじゃる言葉を味わいながら興味深く読み進みました。

加藤家の歴史がよくわかって、誇りに思えました。鎌倉時代からの名家で、戦国時代を生き抜いているような名家とつながっていたのですね。サンフランシスコで解説してくれた時を思い出します。今は触発されて、司馬遼太郎の描いた黒田家の小説「播磨灘物語」を読んでいます。黒田官兵衛は、生き方がどこか父と似ているので、興味があります。睦子さんのいそっぽの物語も出版されのを待っています。本当に素晴らしい本を出版されてとても尊敬致します。

● Y.S 氏(作家):2014/12/09 16:

ご著書を拝見し始めまして、びっくり。秋月家のことが少し書かれています。私の知人がそのご子孫で、最近、いくつかの要職を退任され、一族の歴史について辿り始め、つい先日も九州のお話、秋月家から養子に出た上杉鷹山のことなど興味深くお話を伺ったところです。加藤様のご著書をぜひ彼に紹介いたします。

● S.T 氏:

睦子さんの御著書を読み始めました。

はじめの伊丹氏系図を見ただけで圧倒されてしまいました。大変なご尽力に頭が下がります。とてもとても興味深いです。楽しみに読み進めます！

● K.M 氏:

先日はピーポート甘木での楽しく、興味深い 記念講演会 ありがとうございます。

私は筑紫野市 山家(宿)の住民で満生(まんしょう)と申します。400 年ほど前より山家地区の古文書に満生の名前が出てきます。調査された近藤四川さん(故人)は伊東マンショの末裔でオラショをあげていた地下壕跡やマンショであったことの古文書を紹介してありました。加藤先生の本の中にゲーテンベルグ印刷機や少年使節団の話が出てきて興味深く感じています。今回の講演に参加できたことは私にとって大変有意義に感じています。ありがとうございます。今後の益々のご活躍お祈りしています。

ーオラショをあげていたであろうと思われる地下壕は時代の流れで今は崩されていて見ることは出来ません。又、マンショであった事が書かれた古文書は現在東京に住んである満生 K さんが持ってあり福岡で見るとは残念ながら出来ません。

ただ マンショや山家宿の事を研究した近藤四川さんの本や満生家の古文書本(江戸末期に薬屋をしていて記録を写真等にしたもの)は有ります。

それと我が家の家紋ですが当時ヨーロッパに出向く際 織田信長の家紋をいただいているようです。恐らく当時の日本を代表するのは日の丸ではなく織田瓜の紋だったのでしょうか。キリシタンの記録というものが無いに等しいので手探りです。言い伝え 聞き伝えであつたり隠された情報が多いです。甘木朝倉地区は 秋月 黒田とキリシタン文明？が盛んであつた事とマンショが住み着いたこと 官兵衛さんもマンショと会っていたかも(細川が小倉にいた時は匿われていたとの事)しれません。

● S.S 氏 : 21 日、甘木の歴史資料館特別展に行ってきました。

● 福岡市総合図書館長 Y.H 氏 (文学・文書課古文書係) : 2014/10/31

この度は、『急ぎ御文参らせ候 寶樹院殿悲話哀話』を 12 部もご惠贈いただきありがとうございます。いただきました資料は、総合図書館の郷土資料部門 2 冊、文学資料部門 2 冊、1 階ポピュラー部門に 1 冊、分館の東・博多・博多南・中央・南・早良・西部図書館に各 1 冊の所蔵とし、広く市民の利用に供しご厚志に添いたいと存じます。ポピュラー部門と各分館の本は、貸出可とし、予約も受け付けております。利用者の方からお問い合わせもいただいておりますし、現在、多くの本が貸出中となっております。郷土資料部門と文学資料部門の本は貸出をしていませんので、総合図書館 2 階の“郷土・特別資料室”では、いつでも本を見ていただくことができます。郷土資料部門でも、年末から「黒田官兵衛に関する特集展示」を行いますので、その際には『急ぎ御文参らせ候』も並べることにしています。今後とも福岡市総合図書館を、どうぞよろしく願いたします。

〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-7-1

TEL:092-852-0634 (文学・文書課古文書係直通)

kyoudo@toshokan.city.fukuoka.lg.jp

郷土担当 : M.H 氏

● I 氏 (科学者) : 2015/10

本格的な戦国歴史小説「急ぎ御文参らせ候」は、大作ですので、少しずつ読ませていただいております。大河ドラマ化できるような、生き生きした描写と、詳細な史実考証に驚いています。

寶樹院殿「はる」は、最近始まった NHK「あさが来た」の「あさ」を彷彿とさせますね。平塚川添遺跡や 300 年前の加藤家武家屋敷など素晴らしい写真、ありがとうございます。いずれにしても、11 月末の朝倉・甘木訪問時に、ぜひ「加藤家武家屋敷」、「平塚川添遺跡」、「八女津媛神社、日向峡」、秋月城址、「大巳 貴神社」などを訪れたいと思っています。

[ページへ戻る](#)